

学研 おんがく通信

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

7月号

Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
Tel. 03-6431-1220

学研電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

2011年6月25日

こんにちは！今年の夏は節電の影響もあってとても暑い夏になりそうですね。そんな夏をいかに快適にさわやかに過ごすか、今からいろいろと対策を考えております。ベランダには朝顔、枝豆、オクラの種をまきました。打ち水、風鈴、冷やし中華、稻川淳二、etc…、今年はいろいろ試しながら夏を乗り越えたいと思います。（さ）

ピアノを長続きさせるために

～導入期に心がけたいレッスンのポイント～

丸子あかね



新しい曲を子どもに渡したとき、子どもたちはどんな顔をしますか？

嬉しい顔、暗い顔、困った顔・・・。

暗い顔、困った顔をする子どもは、きっと譜読みが苦手だったり、練習の仕方がわからなかつたりして不安なのでしょう。そのうち、ピアノが嫌いになってやめてしまうかもしれません。このような子どもたちに会うたびに、導入期に「譜読みや練習を自分でできるようになる教育」をすることが、ピアノを長続きさせる一番の近道だと確信するようになりました。

「導入期に譜読みの学習は難しいのでは？」と思われる方も多いと思いますが、アプローチの仕方によっては、大人が難しいと思うことでも、子どもは意外と難しく感じることなくマスターしてくれるのです。その具体的な方法は、指導者と子どもの関係の中で育まれるものですので、一概には言えませんが、私自身レッスンの中で常に心がけているポイントがいくつかありますので紹介させていただきます。参考になさってください。

①子どもが好きそうな ポイントを見つける

「この子のポイントはどこかな？」と、日々子どもたちとコミュニケーションをとりながら考えています。ポイントを見つけたら、試してみる…、それを繰り返して、引き出しの数を増やしていきましょう。

②得意なところを見つけて褒める →褒め上手な先生になる

子どもそれぞれをよく観察して、得意なところを見つけて褒めてあげましょう。見当たらない場合は、得意な部分をつくってあげることも必要かもしれません。「ひとりひとりが、必ず得意な部分をもっている」のです。

③できるところと、できないところ（課題） を組み合わせる

「あがができるならこれもできるよ！」とできるところを絡めながらレッスンを進めると、子どもたちに自信がつき、やる気が継続します。ただ、子どもは覚えることが早い反面、忘れることも早いので、できているところを復習していくことも大切です。

このように子どものやる気を引き出しながら、将来必要な力をしっかりと身につけてあげましょう。
ピアノを好きになるか、嫌いになるかは、導入期次第。頭のやわらかい幼児期から始めることが意味がそこにあるはずです。

クラシックを聴いて 暑い夏を乗り切ろう！

☆編集部おすすめ

●パワーがみなぎる曲

♪ハチャタウリヤン：「ガイヌ」より〈剣の舞〉

♪オルフ：「カルミナ・ブランナ」より
〈おお、運命の女神よ〉

♪芥川也寸志
「交響管弦楽のための音楽」より第2楽章

♪ショスタコーヴィチ
「交響曲第5番「革命」より第4楽章

♪エルガー：威風堂々

●涼やかな気分になる曲

♪リスト：「巡礼の年」より〈エステ莊の噴水〉

♪ラヴェル：水の戯れ

♪チャイコフスキイ：「くるみ割り人形」より
〈こんぺい糖の踊り〉

♪サン=サーンス：「動物の謝肉祭」より〈白鳥〉

♪グラズノフ：「四季一冬」より〈氷〉



●交響戦艦ショスタコーヴィチ
~ヒーロー風クラシック名曲集
(Naxos Japan)



● classiCOOL
(Naxos Japan)

今月の あかね 先生



前回のこのコーナーで、「あかね先生は、明るくてパワーに溢れています！」と書いてしまったら、先生から「やめてよ～」とのコメントが…(汗)。お断りしておきますが、先生はとても繊細でシャイでもいらっしゃいます。常日頃、先生の細やかなお心遣いには敬服するばかり。あれっ？ フォローになってない！？ それにしても先生のレッスンでの「明るく！元気で！楽しい！」雰囲気作りは本当に魅力的。セミナーでは、そんな“先生のお教室”的雰囲気が肌で感じられます。必聴モノです。(か)

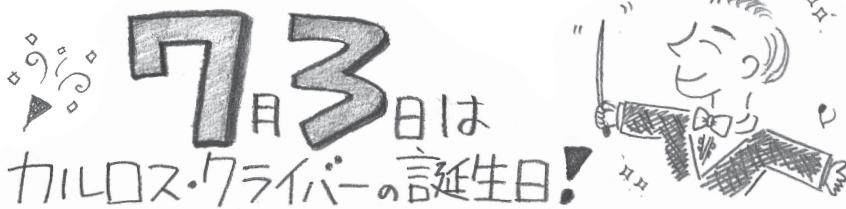
今月のセミナースケジュール

6/30 (木) : [埼玉県 / 所沢市] ヤマハ所沢
『子どもが飽きないリズムのレッスン！～ $\frac{6}{8}$ ・ $\frac{3}{8}$ 拍子編～』

7/14 (木) : [愛知県 / 豊田市] ダイイチ楽器豊田店
『音符を読むコツ！』

7/15 (金) : [愛知県 / 名古屋市] 日響楽器池下店
『子どもが飽きないリズムのレッスン！』





1930年7月3日生まれの指揮者カルロス・クライバー（2004年7月13日没）は熱狂的なファンをもつカリスマ指揮者として、いまもその人気は衰えを知りません。残された映像から、そのあまりに優雅な指揮姿に魅了される人があとを絶たないのです。しかし、生前の彼はどのオーケストラの音楽監督や首席指揮者という地位にもつかず、クライバーが指揮するかもしれないというニュースだけで世界中の音楽ファンがにわかに色めきたつほどの存在だったのです。かのカラヤンが「彼は冷蔵庫が空にならないと出てこない」と言ったのは有名な話です。指揮をしないことで有名な指揮者など空前絶後でしょう。またクライバーは、指揮する曲やオペラを極端に限定的にしました。少ないレパートリーで有名というのも、いかにもクライバーらしく感じてしまうから不思議です。

その少ないレパートリーのひとつに、テレビドラマ「のだめカンタービレ」のオープニング・テーマ曲に使われて一躍超有名となつたといわれる“ベト7”（ベートーヴェンの交響曲第7番）があります。沸騰するリズムの大絵巻のようなこの名曲で聴き手はめくるめくような興奮に惹きこまれていきます。その映像は今でもDVDで観ることができます。「のだめ」で千秋役を演じた玉木宏さんがそれを指揮の演技の参考にしたという確証はないのですが、とても似たところがありますよ。

それはともかく、7月に生まれ7月に死んだクライバーのベト7でフィーバーしてみるというのは、いかがでしょうか？（さ）



♪ジョルジュ・サンド
(フランス/作家/1804.7.1生)

♪グスタフ・マーラー
(オーストリア/作曲家/1860.7.7生)

♪フェルディナント・バイエル
(ドイツ/作曲家・ピアニスト/1803.7.25生)

♪ペーター・シュライヤー
(ドイツ/テノール歌手・指揮者/1935.7.29生)

学研情報

Q 今日は中級のおハナシ。「標準新版」シリーズでは、中級レベルの学習に必須のライン・アップを取り揃えています！このシリーズの特徴は、「原著の意図をそのままに、現代においての使いやすさ」を追求していること。さらにブルクミュラーでは「予備練習」、 Chernyev - 100番では「ユニット別学習」、 Chernyev - 30番では切り取り別冊付録の「リズム変奏」などの工夫が凝らされていて、確実に実力がつきます！

- 標準新版ブルクミュラー25の練習曲
- 標準新版ハノン練習曲①②
- 標準新版 Chernyev - 100番練習曲
- 標準新版 Chernyev - 30番練習曲

定価：各840円（税込）

Gakken

UDAR

○うださんが作った新しい楽器

ウダー～其の參～



これまでに見たこともないインターフェースを持つ楽器、ウダーのしくみについて、前回はらせんに巻かれたチューブの話をしました。チューブは左右が線対称になっており、いずれも筒の外側ほど高い音、内側ほど低い音になっています。実はこんな楽器も珍しいのです。鍵盤であれば、左から右へと音階が上がっていく流れに両手をおきます。弦楽器は、左右の手が違う役割を持ちます。管楽器も左右の手でひとつの作業を分担します。しかし、ウダーは両手の役割がまったく同じです。その結果、どのような演奏法も可能なのです。



左右の手で伴奏とメロディーに分けてもよいし、メロディーを両手で弾いてもよい、はたまた伴奏とメロディーを一体化した譜面を指の動かしやすさ優先でミックスして弾いてもよいのです。自由度が高すぎるることは、得てして「不便」につながる場合がありますが、楽器は「音楽を奏でること」が目的ですから、すべては演奏家の手に委ねられます。その中から「〇〇流」みたいなものも生まれるはずです。ちなみに、現状は宇田流しかありません、はい。（つづく）

レッスンQ&A

回答してくださったのは
江崎光世先生

Q. 将来、子どもをピアニストにしたいと親御さんに言われたのですが、どのように対応したらよいでしょうか？

A.

1. 幼稚園・小学生時代の場合

夢があつてよいですね。こういうケースでは親御さんの協力が得やすいのでレッスンは進めやすいでしょう。しかしあくまで親御さんの希望ですので、「お子さま自身にその意欲と夢を実現できるだけの力が備わった時に選択されることが良いと思いますよ」と、言い添えておかれるといいでよいでしょう。

2. 中学生時代の場合

この時代になると、ここまで受けてきたレッスンや練習方法が、今後さらに専門的な技術を積み上げていくための力として身についているか？この希望が生徒さん本人からの要求なのか？が、大きなポイントとなります。先生はまず、現時点の能力判定をした上で、「音楽以外の幅広い勉強をすることが可能か？」、「どういうピアニストとして活躍したいのか？」などと質問をしながら生徒さんの様子を観察してみましょう。生徒さんや親御さんに対しては、「まずは、一年間努力してみてはいかがでしょうか？」などとお答えしましょう。

詳しくは→ [おんがく.net](http://ongaku.net) <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

編集部のつぶやいたー！

Music adds color to my life
anytime, anywhere!! (@め)

Tsubuyaitter.....